

## 李登輝元総統閣下との一期一会

～その邂逅は一瞬、偉大な先生との出会いに感謝～

2020年7月30日、台湾民主の父といわれた李登輝元総統閣下がご逝去されました。偉大な指導者の訃報に接し、深い悲しみを禁じえません。ご遺族ならびに台湾の皆様には心からお悔やみを申し上げます。

私は札幌日台親善協会々員として北海道・札幌における日台交流活動に従事しております。本活動は既に10年近くになりますが、過去に一度だけ李登輝元総統閣下にお会いする機会がありました。それは2014年9月23日～25日の北海道ご訪問において、現地の医療スタッフとして関わったのが縁です。

来道された李登輝元総統閣下のお姿を直に拝見した際、私は感動のあまり直立不動でお迎えしたことを覚えています。尤も、お言葉を交える機会はよもやあるまいと思っていました。しかし、帰台される直前のお忙しいスケジュールの中、同行してきた李登輝基金會と招聘した日本李登輝友の会の計らいによりついに面談の機会を得ました。

面談は少数の道内関係者を交えた座談会の形をとり、李閣下のご講話を拝聴しました。最初は今回の訪日の目的から始まり、大阪・東京での講演、北海道を見た感想、李家と北海道との縁、更には日本の指導者への提言、医療技術、台湾農業の課題（特に肉牛生産）、エネルギー問題など、多岐にわたる貴重な話をして下さいました。さながら「李登輝教室」のようで、“先生”に教えを請う“生徒”として私たちは幸せな時間を過ごしました。

直に聴く閣下のお声は、お歳を召されながらも活力が漲り、自らの体験談、培った知識を分かりやすく熱心に伝えておられました。限られた時間のなか、例え一介の民間人であっても、惜しげも無く叡智を授けようとするお姿に感動を覚えずにはいられませんでした。また、閣下は“生徒”からの質問を喜んで受けて下さり、お言葉を交わすことができた喜びは何物にも代え難いものでした。余談ではありますが、講話が終わった後に、私たち“生徒”は李登輝先生との握手・記念撮影、更には台湾名物のパイナップルケーキを下賜される栄誉に浴しました。握手をした瞬間、その手の何と温かかったことでしょうか。そして、その温厚な笑顔は一生忘れられません。

出発の刻限が迫り、私たち道内関係者はその場を辞することになりました。しかし、退出の間際、私ははたと気付きました。李閣下がその温かい眼差しを私に向けていることに。思わず、“もう少しこの場に留まりたい、、、”との気持ちが顔に出てしまったようです。秘書の早川友久氏がその気持ちを汲んで下さったのか、何と閣下の隣に席を設けてくれたのです。とても信じられないことでした。私は李登輝元総統閣下と直接対談することを許された

のです。

その場の状況から、私は“あまり時間は残されていない”と意識していました。“今、私は訊かねばならない”、それは閣下の生涯を形作った「信仰と哲学」についてです。指導者として孤独に耐えながらも、台湾の民主化・本土化を達成した李登輝元総統閣下の心の奥底にある“核心”に少しでも迫りたかったのです。

(安藤) これまで私は李登輝先生の著作を全て読ませていただきました。その中で先生は、人生観・死生観を培うため、特に指導者は哲学をすることが重要と述べられていますね。

(李元総統) 社会で指導的立場にある者は哲学をすべきだ。理性哲学と実践哲学、そしてトマス・カーライルの衣裳哲学(サーター・リサータス)は私に強い影響を与えた。黄文雄氏が書いた「哲人政治家 李登輝の原点」にも詳しく書かれている。

(安藤) 李登輝先生は、指導者が信仰を持つことの重要性を説いておられますね。

(李元総統) 指導者はその芯に何らかの信仰を持たなければならない。私はキリスト教徒だが、それは様々な宗教もしくは日本そのものに対する信仰であっても良いと思う。

それは戦後日本の多くの指導者に欠けていたものだと思います。目先の利益に捉われることなく、真実真理を追究し、危機にあっても動じず、誠実に愚直に国民が必要とするものを実践する。その根底に「信仰と哲学」が不可欠なのだということを強調されたのだと思います。同時にそれは、今を生きる日本人が持つべき必須の素養だと思うのです。

時間にすれば5~10分、まことに短い対談でした。言わずもがな、本題の核心に迫れるはずもなく、あっという間に出発の刻限となりました。しかし、私にとってこの5~10分は人生最大のイベントであり、日台交流に携わる者として幸福を噛み締めた瞬間でもありました。李閣下は別れ際に固く握手を交わして下さい、私は敬礼を以って見送らせていただきました。

李登輝元総統閣下が生涯をかけて示された日台友好の精神は、今や私たちにとって大切な宝物です。この恩徳に報いるためにも、私は日台友好の道を誠実に愚直に歩いて行くことを閣下の御霊にお誓い申し上げます。安らかにお眠り下さい。

令和2年(西暦2020年)8月

札幌日台親善協会 理事  
安藤 康博